

自選二十句（2023.1-2024.7）

佐々木静江

寒暁の空に眩き一つ星
初風と海神だけの三番瀬
枯蓮午下の日射しに静もりぬ
復興と能登の焦土や梅ふふむ
ほころびて風際やかや沈丁花
春風や祈りの鐘のある灯台
催花雨に煙る病舎や退院日
亀鳴くや平穩といふ一日暮れ
母の墓青葉を渡る風の中

白砂にレースの波や夏来る
額の花海の色もて咲きにけり
遠雷に入江の小舟見え隠れ
夏草や真青の空の天守閣
老鶯と沢音だけの森を行く
暁天を映して揺るる植田かな
空色にひらく朝顔こぼれ種
湧き水の流れ集むる小滝かな
秋天や航跡消ゆる水平線
叢雲のレースに透くる盆の月
水澄むや深き杜ゆく人の黙